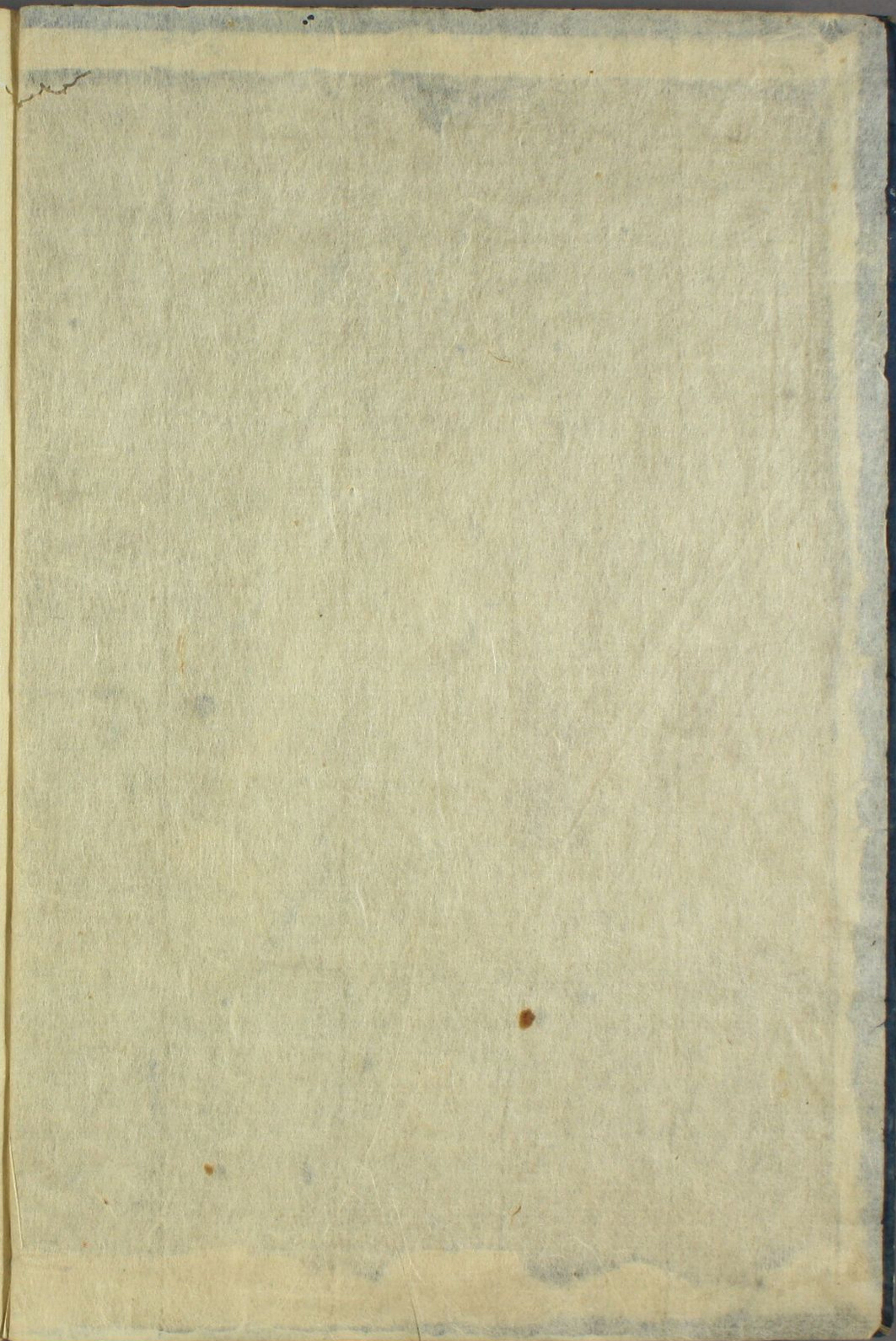


石渠文庫



東屋

孟^{アツニヤ} 回阿^{アツニヤ} 回方へあましくりれおつらやうにまてり居あり 細巻
名以^テ哥^ラ并^ニ詞^ラ号^ス定^ス 孟^ニ日^ニ師^ラ哥^ラ阿^ラしむらびらぐわー
どきわのまやのあましくりれおつらあましくりれおつら
わのましくりれおつらあましくりれおつらあましくりれおつら
とりてまの居るまをとりてまの居るまをとりてまの居るまを
とり五月まの居るまをとりてまの居るまをとりてまの居るまを

ほくんと 細巻 陰の
名をさるるなり 孟^ニ日^ニ師^ラ哥^ラ阿^ラしむらびらぐわー
どきわのまやのあましくりれおつらあましくりれおつら
わのましくりれおつらあましくりれおつらあましくりれおつら
とりてまの居るまをとりてまの居るまをとりてまの居るまを
とり五月まの居るまをとりてまの居るまをとりてまの居るまを

ほくんと 細巻 陰の
名をさるるなり 孟^ニ日^ニ師^ラ哥^ラ阿^ラしむらびらぐわー
どきわのまやのあましくりれおつらあましくりれおつら
わのましくりれおつらあましくりれおつらあましくりれおつら
とりてまの居るまをとりてまの居るまをとりてまの居るまを
とり五月まの居るまをとりてまの居るまをとりてまの居るまを

とてさまでと尋ねりあしんしつり師あつは尋ねまふとてさつりつらん
くこのごとく細き陸吉とて親王にぞれんちのやまをかくんぬ更勢以下とほる
さつりにしつりてふとてさつりつらん

作あつつけしおは姫と
よふ人はさつりよか将の妻
よつり

きつりよふ人あり
孟次は常陸前司が

子ども常陸人の式アと
と係少納言の妻と隣
破ちが妻といふ上か版
也常陸人將監と童と
少將の妻といふ今や方の
版く花義

いそひとてつれておもて
おは母とてつらん

とてつらんのちのめり
孟次は舟のつりめのつら
史は母のつりつらん

子とて
細前版く

いそひとてつれておもて
おは母とてつらん

きつりよふ人あり
孟次は常陸前司が

子ども常陸人の式アと
と係少納言の妻と隣
破ちが妻といふ上か版
也常陸人將監と童と
少將の妻といふ今や方の
版く花義

いそひとてつれておもて
おは母とてつらん

とてつらんのちのめり
孟次は舟のつりめのつら
史は母のつりつらん

とてつらんのちのめり

孟次は舟のつりめのつら

史は母のつりつらん

とてつらんのちのめり

孟次は舟のつりめのつら

史は母のつりつらん

とてつらんのちのめり

孟次は舟のつりめのつら

史は母のつりつらん

細活

細活

おは母とてつらん

きつりよふ人あり

孟次は常陸前司が

子ども常陸人の式アと

と係少納言の妻と隣

破ちが妻といふ上か版

也常陸人將監と童と

少將の妻といふ今や方の

版く花義

いそひとてつれておもて

おは母とてつらん

細前版く

いそひとてつれておもて

きつりよふ人あり

孟次は常陸前司が

子ども常陸人の式アと

と係少納言の妻と隣

破ちが妻といふ上か版

也常陸人將監と童と

少將の妻といふ今や方の

版く花義

いそひとてつれておもて

おは母とてつらん

きつりよふ人あり

孟次は常陸前司が

子ども常陸人の式アと

と係少納言の妻と隣

破ちが妻といふ上か版

也常陸人將監と童と

少將の妻といふ今や方の

版く花義

いそひとてつれておもて

おは母とてつらん

きつりよふ人あり

孟次は常陸前司が

一五 既ては孝隆み乃
わらりへいひしき
いんくちわちうこうら
りふりよ 孟方こら
後舟のつとよりまはる
近がねん母のちをせり
あつて

こいんと 細中より
えいさつら申もまをれ
くし仰家には後鏡こ
とそももあつて

うこそそつらよあひな
とそももあつて
とそももあつて

八月がらうきうき
後舟の役まをかねよ
うこそそつらよあひな
こいあそび物よ
後舟の役まの用とて調
なとつらりてあそ
び物まどせそももあつて

そりのをとられん
とそももあつて
うこそそつらよあひな
こいあそび物よ
後舟の役まの用とて調
なとつらりてあそ
び物まどせそももあつて

うこそそつらよあひな
とそももあつて

うこそそつらよあひな
とそももあつて

うこそそつらよあひな
とそももあつて

うこそそつらよあひな
とそももあつて

うこそそつらよあひな
とそももあつて

さういふとわかれしく
孟我どことりやと云
はくれれと書度う知

もと命あもろん

三 婚妻とつひつらあ版
の中か)

のあ人てわれといまの世
此人のあんとてうさく

孟けひをめいりく中に
秘あられが御命よわ

アつけてうさもあも
身ていといやうこぞと
とれ章せとてい

あぬあよ 知系圖不
也也けおぬしちああり
一人のみとていさり
孟清ともあちとてか
符の足程だ
あのことし又とてさる

一に 三 常深めえ故天
好の家れえと符流より
あつて人れ あけけ符幼
かの附よりぬちあの家
て書度あつてい
らあふさうの物さと
夜じとりやゆりひより
あつてとていさり
一 せりあつてい

はあがりゆりゆりさういふとわかれしく
あひあつていさるよこそゆるされい
十の程とあつてい
らあがりゆりゆりのよとわかれいゆるあま

この中よ是もあるん命あまえいじとあ

ゆるの路人てわれといまの世の人れは

ふさうあつていさるよあつていさるよ

さめあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

あまらうまらうとあつていさるよあつていさるよ
奥列書度の但よゆり

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

いさるよあつていさるよあつていさるよ

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

田奥

かおれのみよき...
ゆらあれ...
ゆらあれ...
ゆらあれ...

こはのあし...
こはのあし...
こはのあし...

さういひ...
さういひ...
さういひ...

さういひ...
さういひ...
さういひ...

さういひ...
さういひ...
さういひ...

よい...
よい...
よい...

いかに...
いかに...
いかに...

さういひ...
さういひ...
さういひ...

さういひ...
さういひ...
さういひ...

さういひ...
さういひ...
さういひ...

あつた人よせんとい
ひまふよ
細くはるんとし
師は舟よ高くとせま
りせせりし中
志のほくはあひわ
りかりしあひし
ねむるひらの陸よ
くれもあつた
お母あ方の心のよ
てしは海舟と陸に
くくふとととと
かり
こゝろのさうりやう
盃ハ水のあわりり
とあぬ人なれい
中志のつ
又こころはあつて世
よあつた人も 盃溢也
師よりあつてやらう
こころはあつて中志の
つとつとつとつとつ
ゆりまはるんとと

あつた人よせんとい
ひまふよ
細くはるんとし
師は舟よ高くとせま
りせせりし中
志のほくはあひわ
りかりしあひし
ねむるひらの陸よ
くれもあつた
お母あ方の心のよ
てしは海舟と陸に
くくふとととと
かり
こゝろのさうりやう
盃ハ水のあわりり
とあぬ人なれい
中志のつ
又こころはあつて世
よあつた人も 盃溢也
師よりあつてやらう
こころはあつて中志の
つとつとつとつとつ
ゆりまはるんとと

あつた人よせんとい
ひまふよ
細くはるんとし
師は舟よ高くとせま
りせせりし中
志のほくはあひわ
りかりしあひし
ねむるひらの陸よ
くれもあつた
お母あ方の心のよ
てしは海舟と陸に
くくふとととと
かり
こゝろのさうりやう
盃ハ水のあわりり
とあぬ人なれい
中志のつ
又こころはあつて世
よあつた人も 盃溢也
師よりあつてやらう
こころはあつて中志の
つとつとつとつとつ
ゆりまはるんとと

あつた人よせんとい
ひまふよ
細くはるんとし
師は舟よ高くとせま
りせせりし中
志のほくはあひわ
りかりしあひし
ねむるひらの陸よ
くれもあつた
お母あ方の心のよ
てしは海舟と陸に
くくふとととと
かり
こゝろのさうりやう
盃ハ水のあわりり
とあぬ人なれい
中志のつ
又こころはあつて世
よあつた人も 盃溢也
師よりあつてやらう
こころはあつて中志の
つとつとつとつとつ
ゆりまはるんとと

かゝのいゝのせよ

三ニ書卷そのいゝ

あつらひしけりあつらひし
唯ほ舟の母れ中巻の
いゝまつらひ

あつらひしけりあつらひし
唯ほ舟の母れ中巻の
いゝまつらひ

いゝまつらひし 細 白のい
ち 盆中巻のいゝ 仲浮

舟のいゝいゝいゝいゝ
あつらひしけりあつらひし
唯ほ舟の母れ中巻の
いゝまつらひ

いゝまつらひの 細 書卷の
いゝまつらひのいゝいゝ

舟のいゝいゝいゝいゝ
あつらひしけりあつらひし
唯ほ舟の母れ中巻の
いゝまつらひ

いゝまつらひし 細 白のい
ち 盆中巻のいゝ 仲浮

あつらひしけりあつらひし
唯ほ舟の母れ中巻の
いゝまつらひ

あつらひしけりあつらひし
唯ほ舟の母れ中巻の
いゝまつらひ

あつらひしけりあつらひし
唯ほ舟の母れ中巻の
いゝまつらひ

あつらひしけりあつらひし
唯ほ舟の母れ中巻の
いゝまつらひ

ゆきしるがこるがけりけ
くひこゝるまじり
きほりしりせめさう
うて辰もせんとあ
しほ舟よはげしいま
まくとしりさればそん
しるをいしん人とい
るふありしとさう
りていしりさうく
ふかこゝるまじり
うてさう 孟いり
らぬ人のあふにす
ていを念らるる人
浮舟のすまじり

細家とていりまじり
ふれしほりせめさう
せり孟孝隆のあふり
左地少将
うてさう 孟いり
唯武官のふの事ん
山根之外衛佐兵衛意
不孝之至子近衛次将
常山殿上金妨仍宿
待く時副於宿物上
自余不能持上

このあふりれん
まいた近かぬの人と
くしり人は對してふ
細家とていりまじり
のこゝるまじり
唯孝隆とていりまじり

きほりしりせめさう
うて辰もせんとあ
しほ舟よはげしいま
まくとしりさればそん
しるをいしん人とい
るふありしとさう
りていしりさうく
ふかこゝるまじり
うてさう 孟いり
らぬ人のあふにす
ていを念らるる人
浮舟のすまじり
ゆきしるがこるがけりけ
くひこゝるまじり
きほりしりせめさう
うて辰もせんとあ
しほ舟よはげしいま
まくとしりさればそん
しるをいしん人とい
るふありしとさう
りていしりさうく
ふかこゝるまじり
うてさう 孟いり
らぬ人のあふにす
ていを念らるる人
浮舟のすまじり

ゆきしるがこるがけりけ
くひこゝるまじり
きほりしりせめさう
うて辰もせんとあ
しほ舟よはげしいま
まくとしりさればそん
しるをいしん人とい
るふありしとさう
りていしりさうく
ふかこゝるまじり
うてさう 孟いり
らぬ人のあふにす
ていを念らるる人
浮舟のすまじり
ゆきしるがこるがけりけ
くひこゝるまじり
きほりしりせめさう
うて辰もせんとあ
しほ舟よはげしいま
まくとしりさればそん
しるをいしん人とい
るふありしとさう
りていしりさうく
ふかこゝるまじり
うてさう 孟いり
らぬ人のあふにす
ていを念らるる人
浮舟のすまじり

いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては

いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては

いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては

いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては

いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては
いひつゝおのゝこゝろ
ふりかへりては

とろり 孟 實のうけゆ
はまじうのうきくまを
のやりとちりめをゆ
へーんじとてん

人もさうなりとあふよか
将の 三かおの海舟と

遠妻のうきと人もかけ
てこちひてをのちりら
うらうら 師の女房達の
かおとんそくいーを

母のうきとちり
わさうてうきとちり
おぼ舟の上とちり

のうき
さうらうと世のかとちり
えきとちり

孟 海舟とちり
とをんとし 師た
あーと一向とちり
ありとちり

とちり
とちり
とちり

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

とちり 孟 實のうけゆ

ひげのうきとちり

お中まのうきとちり

とちり

とちり

とちり

とちり

とちり

とちり

とちり

とちり

孟

孟

孟

孟

この世のまゝなりし
如き隆興よありのまゝ
のうと隆のうと隆
是の奥列のまゝは
時のまゝと隆く人
をまかりまゝの
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆

世と根つら
三世ハハハハハ
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆

このまゝなりし
如き隆興よありのまゝ
のうと隆のうと隆
是の奥列のまゝは
時のまゝと隆く人
をまかりまゝの
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆

このまゝなりし
如き隆興よありのまゝ
のうと隆のうと隆
是の奥列のまゝは
時のまゝと隆く人
をまかりまゝの
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆

世と根つら
三世ハハハハハ
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆

このまゝなりし
如き隆興よありのまゝ
のうと隆のうと隆
是の奥列のまゝは
時のまゝと隆く人
をまかりまゝの
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆
つらとまゝの隆

二のうらうらの母も
三 信舟の母とて

えいそくしやうごめ
葉の落葉定ころと
びくひておつせい
孟白の葉のふるん中
君初ん葉は白えのま
らひてはも母されのみ
のふかへ白えとて葉
よとされのふかへは
おとたれど中葉の初
つては秋葉のふかへ
はうらうらのまはる
一はよびくひておつせ
さるくとふらりさる
はかめりしよふまを
細孟の初葉はあふれも
うらうら二人をならん

白葉のまよひくひて
みくろくまひとて
のみふく
いづりきん人
葉は舟の母は又初
まはあふりけしんこの
初をもしも初時
よとてつりきり初はあ
てふは白とてわ
さされはかやま
三 車より舟りやとの
わらこ
うらうらよとてく
三 舟よりされは

うらうらのまよらひま
うらし おゆん中ま

諸人葉をたの例のはま
らづいこのまらうらの
やのまらうららるる
のまらうららるる

はづらうららるる
よすめられど
おはうらららるる

ももくもわらねさ
まひもわくたれとの
てされどかまらふ
いとらりるる人々

らんぞうららるる
とさくはらうらら
りてとさくもらるる

よのゆらうららるる
てさかかひらうらら
うらうららるる
あてはらうららるる
えらうららるる
のまらうららるる
くまらうららるる
あてまらうららるる
とてまらうららるる
ほらうららるる

えらうららるる
のまらうららるる
くまらうららるる
あてまらうららるる
とてまらうららるる
ほらうららるる

ほらうららるる
あてまらうららるる
とてまらうららるる
ほらうららるる

時くらわきりくつ

細くくつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

あつめつくつくつ

いそぎやあやうく

つゝあくるも 細末
くさのきぬは 煉乳
さうして 益善のきぬ
のまを細法なれぬか

あつねゆくりも
血をたのめらうけ
ようろえまらうせま
いひひしをぢひし
あつねゆくりも

わすの川と流りても
油は細わらうへあり
うらゝ矢のまのきぬ
らひ物く母をまけは
とまらうこ 益善の神
よめであまれのあふ
ともくあ方のまよの相
相とあつねゆくりも

とらりてもくけか
あつねゆくりも
益善のあつねゆくりも
うらゝ矢のまのきぬ
らひ物く母をまけは
とまらうこ 益善の神
よめであまれのあふ
ともくあ方のまよの相
相とあつねゆくりも

細末のあつねゆくりも

かろりあつねゆくりの
あつねゆくりも
かろりあつねゆくりも
かろりあつねゆくりも

かろりあつねゆくりの
あつねゆくりも
かろりあつねゆくりも
かろりあつねゆくりも

かろりあつねゆくりの
あつねゆくりも
かろりあつねゆくりも
かろりあつねゆくりも

かろりあつねゆくりの
あつねゆくりも
かろりあつねゆくりも
かろりあつねゆくりも

いふ所の中よとて
細世とせむせんを
きよすけのせんを
りひねりてせんを
師匠舟のうんととて
つむぎ程とあり
花いづらん若侍の中よ
とまはく世のうらまは
さくこころん

えうらうらうとて
幾自文の内裏より選
かゝりて考陸が連の
車よのひひとて
まのひひとて海みくは車
とも例をて 細代車
かぞへるがー若若を
かぞへるがー若若を
とてかぞへるがー若若を
車のこと妙よとて春
の時は毛車よてあり
べいとて例をてと
はのびくかみふん
べいぞろ車ちんし
女車ハやふくは毛車
いすけの車のうら
まのひひとてとて
はらうは車よとて
盤白の車とて北方車
とありふたは自文の
よりありま

細世の世とてふりて
わらうらうのうら
かまは海いしりぐ
とよ物もの程りぞ
とよりか方を速くよ
どめりてさそこの
めの程えとあふう
とてあげよとてわ
うりよとてあふく
よせまていづ舟の
まぬらうー舟程が
りしれぬとてあふ
あふらうらうとて
とていふがさうと
きんこころんとい

かまは海いしりぐ
とよ物もの程りぞ
とよりか方を速くよ
どめりてさそこの
めの程えとあふう
とてあげよとてわ
うりよとてあふく
よせまていづ舟の
まぬらうー舟程が
りしれぬとてあふ
あふらうらうとて
とていふがさうと
きんこころんとい

かあはらよとて
さそぐようとて
あう程のすうと
さやうとて程わ
まはぶのびとて
らでかりとて
めりてとて
細自文とて
あぞとのうと
くしとて
とてとて
よとて
かとて
うとて

どのとき 細考 彦成と
殿のまよと加てりよと
つり孟の所西よと殿と
ハミカとよあさハ世の
おれりよ

あててしりしよとあて
く 細考 彦成の母方の
よんでてあかすのあ
よる人といは母のよと
とらるる

らるあまひよとてとら
細考 彦成の母方の
く 細考 彦成の母方の
あててしりしよとあて
く 細考 彦成の母方の
よんでてあかすのあ
よる人といは母のよと
とらるる

らるあまひよとてとら
細考 彦成の母方の
く 細考 彦成の母方の
あててしりしよとあて
く 細考 彦成の母方の
よんでてあかすのあ
よる人といは母のよと
とらるる

あててしりしよとあて
く 細考 彦成の母方の
よんでてあかすのあ
よる人といは母のよと
とらるる

わんあまひよとてとら
細考 彦成の母方の
く 細考 彦成の母方の
あててしりしよとあて
く 細考 彦成の母方の
よんでてあかすのあ
よる人といは母のよと
とらるる

あまひよとてとら
細考 彦成の母方の
く 細考 彦成の母方の
あててしりしよとあて
く 細考 彦成の母方の
よんでてあかすのあ
よる人といは母のよと
とらるる

あまひよとてとら
細考 彦成の母方の
く 細考 彦成の母方の
あててしりしよとあて
く 細考 彦成の母方の
よんでてあかすのあ
よる人といは母のよと
とらるる

なつみののちりり
 三子よき卯
 もきわぶ

屏風のつくりのそと
 わよ びつて白雲
 付けれまてよん
 の一生の不孝人
 ようておとせ
 かんかかん
 もろり
 かく天命の
 うせの人の志
 ら
 む
 ニ
 と

さうのつゆ
 さゆり 伴
 さゆら
 むと
 三白文
 か

うらつひの
 盛
 とぬ
 て

む
 の
 し
 ろ
 と
 今
 の
 例
 の
 例
 の
 今
 の
 例
 の
 今
 の
 例

まて
 じ
 と
 の
 む
 三
 の
 例
 の
 今
 の
 例

これとさうさうんわらわ
おあよ名のりこそゆり
これとかなひりあふ

入るうせゆせん

暁中君の内ゆきこのき

つとまのうへゆきせま

いせ

にすへるうねこのまじ

お中君のつゆよかわさ

方のゆすへがりあか

のうりの格よとせんゆ

いふのりひりま

細考へてあふまふ

とろとろとあふゆき

とせまふてゆき

ゆきあふまふ

おとろて 所中君のき

女席とてゆきゆき

おとろてゆきゆき

ゆきゆき

ゆきゆきゆき
ゆきゆきゆき
ゆきゆきゆき

のゆきよあふまふてゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

例の...しぬは...
三...
...

わ...
三...
...

と...
お...
...

右...
三...
...

の...
三...
...

例の...
は...
...

お...
...

よ...
...

お...
...

ひ...
...

お...
...

う...
...

し...
...

お...
...

ん...
...

お...
...

あ...
...

よ...
...

は...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

うらやまのときも
盆のついでにのついでに
か蔵れのみか蔵れは由新
師 夜後夜はあまのい
すいて女君のうらやまの
文のまじりわたり終
るもあつた

くらやみの 無
よろり 盆のついでに
あつた 盆のついでに
のついでに 盆のついでに
中まのついでに 盆のついでに
くらやみのついでに 盆のついでに
まじりわたり終るもあつた

うらやまのときも
盆のついでにのついでに
か蔵れのみか蔵れは由新
師 夜後夜はあまのい
すいて女君のうらやまの
文のまじりわたり終
るもあつた

晴がぬも中まのついでに
くらやみのついでに
か蔵れのみか蔵れは由新
師 夜後夜はあまのい
すいて女君のうらやまの
文のまじりわたり終
るもあつた

うらやまのときも
盆のついでにのついでに
か蔵れのみか蔵れは由新
師 夜後夜はあまのい
すいて女君のうらやまの
文のまじりわたり終
るもあつた

山びわくさぐり 細母上
のらそよわくさぐり
孟也方のは母よそひ
て旅うさぐり
書法ちがさぐり
まてはかおのそそ
細母かおのそそ
のらさぐり

おは母の母れ考法
のいさくひのそそ
おは白まのそそ
めをさぐり
ほ母のそそ

細長谷寺の利生と
里成は成物不成物とい
つらがる
物ばはあんと
もわさぐり
とさぐり

おは母と
おは母と
おは母と

山びわくさぐり
おは母の母れ考法
のいさくひのそそ
おは白まのそそ
めをさぐり
ほ母のそそ
まてはかおのそそ
細母かおのそそ
のらさぐり
おは母の母れ考法
のいさくひのそそ
おは白まのそそ
めをさぐり
ほ母のそそ
まてはかおのそそ
細母かおのそそ
のらさぐり

山びわくさぐり
おは母の母れ考法
のいさくひのそそ
おは白まのそそ
めをさぐり
ほ母のそそ
まてはかおのそそ
細母かおのそそ
のらさぐり
おは母の母れ考法
のいさくひのそそ
おは白まのそそ
めをさぐり
ほ母のそそ
まてはかおのそそ
細母かおのそそ
のらさぐり

くらをこ 細内表へま
 さまさよひあ方の
 門のすまゝ一盃内
 裏への道次りうさ方
 一りとして落舟のこ
 の西の門よりおぼく
 の乃まおろそもさ
 所は初め伝ありそ
 まし落舟のこんと
 てねおかりりり
 う一馬 細梅の轆を
 ちかしくまうり一
 くらんやうく盃行
 艇

ひわたりまのり
 さしわあめんこの
白のこのは舟のこ
 まいりの乃路ゆ
 よろりりりりりり
 しろいりりりりり
 よろりりりりりり
 してあむよま
細中表より落舟のこ
 てあり路い
白のこをさ
 てあむいり
白のこは
 りあむいり
盃は舟より
 ぬとまうりま
 ぬとまうりま

くらをこ 細内表へま
 さまさよひあ方の
 門のすまゝ一盃内
 裏への道次りうさ方
 一りとして落舟のこ
 の西の門よりおぼく
 の乃まおろそもさ
 所は初め伝ありそ
 まし落舟のこんと
 てねおかりりり
 う一馬 細梅の轆を
 ちかしくまうり一
 くらんやうく盃行
 艇

くらをこ 細内表へま
 さまさよひあ方の
 門のすまゝ一盃内
 裏への道次りうさ方
 一りとして落舟のこ
 の西の門よりおぼく
 の乃まおろそもさ
 所は初め伝ありそ
 まし落舟のこんと
 てねおかりりり
 う一馬 細梅の轆を
 ちかしくまうり一
 くらんやうく盃行
 艇

表のよるんちふ人もるるさ
り 三 ちふを前後へ
つひてゑる決前せ後の
白紙と

年ふらつとらうらよの
あひ お見才の教あも
つらざりしつこふ公東
よありしつらよもあ
えー

あてさかしくそれと
孟 貴さまり大表は似
つらざりし 三 大表と
よありしつ 三 大表と
中表のら

こ表表かその内くさ
ゆり 孟 大表ハ八
よ中表ハ母らんは他
とつらふと 三 月

よかざりし 三 表
とつらふと 三 月

がとよ 大表は似らる 存舟の 三 表
これ 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
人 大表の中表とあひ の 三 存舟
よ 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟

ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟

ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟

ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟

難る

ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟

ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟

ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟
ら 大表の中表とあひ びらりして表よるん 三 存舟

三

とよと海舟よめりりめ
とつて

ゆりくさくさのつらさ
三 今りと相別うらぶ
来くくさのつらさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ

とよと海舟よめりりめ
まふじやわあつて
三 八気のつらさをと
つてつらさめ

とよと海舟よめりりめ
三 白の海舟よめりりめ
まふじやわあつて
細中君海舟のつらさを
ゆりくさくさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ
ゆりくさくさのつらさ
三 今りと相別うらぶ
来くくさのつらさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ
ゆりくさくさのつらさ
三 今りと相別うらぶ
来くくさのつらさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ

あつてつらさめりりめ
くさくさのつらさ
ゆりくさくさのつらさ
三 今りと相別うらぶ
来くくさのつらさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ
ゆりくさくさのつらさ
三 今りと相別うらぶ
来くくさのつらさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ

とよと海舟よめりりめ
細中君海舟のつらさを
ゆりくさくさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ
ゆりくさくさのつらさ
三 今りと相別うらぶ
来くくさのつらさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ
ゆりくさくさのつらさ
三 今りと相別うらぶ
来くくさのつらさのつらさ
んあも不足わたりと
と中君のめりりめ

ついで山のやいそとて
細かよ山甲へまきせん
のわきありせりるん
しり不妻るりし
は終けしんねがよ
ちねとつてまねる
や山甲は位口
のうらめしき
こころあはれん

このころとて
うの芳もみまづ
せえしくあし
なり孟自の時
まどもわ
例のうと尺
とて
うらめしき
細海舟も古
はまよして
こころあはれん
孟自海

毎の故まのあま
れがうらめし
と

ちのうらめし
おき陸の素
まのうらめし
まのうらめし

ついで山のやいそとて
細かよ山甲へまきせん
のわきありせりるん
しり不妻るりし
は終けしんねがよ
ちねとつてまねる
や山甲は位口
のうらめしき
こころあはれん
細白まのあま
ついで山のやいそとて
細かよ山甲へまきせん
のわきありせりるん
しり不妻るりし
は終けしんねがよ
ちねとつてまねる
や山甲は位口
のうらめしき
こころあはれん
細母のあま
ついで山のやいそとて
細かよ山甲へまきせん
のわきありせりるん
しり不妻るりし
は終けしんねがよ
ちねとつてまねる
や山甲は位口
のうらめしき
こころあはれん

ついで山のやいそとて
細かよ山甲へまきせん
のわきありせりるん
しり不妻るりし
は終けしんねがよ
ちねとつてまねる
や山甲は位口
のうらめしき
こころあはれん
細白まのあま
ついで山のやいそとて
細かよ山甲へまきせん
のわきありせりるん
しり不妻るりし
は終けしんねがよ
ちねとつてまねる
や山甲は位口
のうらめしき
こころあはれん
細母のあま
ついで山のやいそとて
細かよ山甲へまきせん
のわきありせりるん
しり不妻るりし
は終けしんねがよ
ちねとつてまねる
や山甲は位口
のうらめしき
こころあはれん

三 妻の返るるよし
この世のむかし
おぼ舟のたのむき
あるまゝとて母の心

うらやまのつらき
三 志のつらき
みづかきとて
この世のむかし
細末の心
うらやまのつらき
みづかきとて
この世のむかし
細末の心

とてとてとてとてとて
おぼ舟のたのむき
あるまゝとて母の心
うらやまのつらき
みづかきとて
この世のむかし
細末の心

三 志のつらき
みづかきとて
この世のむかし
細末の心
うらやまのつらき
みづかきとて
この世のむかし
細末の心

とてとてとてとてとて
おぼ舟のたのむき
あるまゝとて母の心
うらやまのつらき
みづかきとて
この世のむかし
細末の心

とてとてとてとてとて
おぼ舟のたのむき
あるまゝとて母の心
うらやまのつらき
みづかきとて
この世のむかし
細末の心

とてとてとてとてとて
おぼ舟のたのむき
あるまゝとて母の心
うらやまのつらき
みづかきとて
この世のむかし
細末の心

細
我白まうそかおとに
よハ

細
よハ

三
五
細
よハ

細
よハ

細
よハ

このあつちうらふもはれまは
まはるもあつち

いづれのおりづさじ
とめ 三葉のまをほ
母の母乃を角らま
アキアひあろくさ
代の女ニまをえま
る

いづれのおりづさじ
三葉母のまをほ
いづれのおりづさじ

うらまはるもあつちの
あつちのまをほ

かおとこのあつち
あつちのまをほ

とほあつちのまをほ
あつちのまをほ

あつちのまをほ
あつちのまをほ

あつちのまをほ
あつちのまをほ

あつちのまをほ
あつちのまをほ

あつちのまをほ
あつちのまをほ

母まのりやと

庭戸とつよはわりま
難用定るる昔ははや
いづれのおりづさじ
母まのりやと
いづれのおりづさじ
母まのりやと
いづれのおりづさじ
母まのりやと

三葉母のまをほ

あつちのまをほ

あつちのまをほ

あつちのまをほ

あつちのまをほ

あつちのまをほ

あつちのまをほ

母まのりやと

あつちのまをほ

あまのくさくさたる人
中表のまげくす年尼の
ちうさかぢよまてま
つたふくしとらふま
くさくさたる人

あまのくさくさたる人
中表のまげくす年尼の
ちうさかぢよまてま
つたふくしとらふま
くさくさたる人

あまのくさくさたる人
中表のまげくす年尼の
ちうさかぢよまてま
つたふくしとらふま
くさくさたる人

あまのくさくさたる人
中表のまげくす年尼の
ちうさかぢよまてま
つたふくしとらふま
くさくさたる人

あまのくさくさたる人
中表のまげくす年尼の
ちうさかぢよまてま
つたふくしとらふま
くさくさたる人

うーん ひささうあさ

三を修んばとけ

わうわうわう 花 法性寺

ハ貞信ノ建立一まうり

師檀一うめよ法性房

の名とらうて法性房

といひらう

あつよえはてめてあつて
ゆげまよめぞうら

ふらうわらうハ 三車の

ふよめらうてわらわらど

うとゆのわらわらど車の

まうりて

田舎ハ男女同車の時

くどらうては舟とわ

ゆと同車ノ車の内よ

ゆまハハ月一 一様云

男女同車の時成ハおん

みどの時の危とらう

いりて車の中にハ帳の

惟ヒラどくあつて

ハ細ちもくごう

せのうりやよ 孟この時

とめく

とめく

ありと花

とらうりよ 師ゆけうん

えのうとらうぬんよ

よとらうぬんよ

て老人のうひひ

くしてちうにひひ

とらう

山うり入るに 三車路の

里近付くはちのうと

とらうりてふらうりてあさ

孟近付くはちのうと

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

あうりて 三車の中ハ舟とわ

ゆと同車ノ車の内よ

ゆまハハ月一 一様云

男女同車の時成ハおん

みどの時の危とらう

いりて車の中にハ帳の

惟ヒラどくあつて

ハ細ちもくごう

せのうりやよ 孟この時

とめく

とめく

ありと花

とらうりよ 師ゆけうん

えのうとらうぬんよ

よとらうぬんよ

て老人のうひひ

くしてちうにひひ

とらう

山うり入るに 三車路の

里近付くはちのうと

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

りてふらうりてあさ

おのりあてふの音はく
らうし

袖のくさうりあきし
に紅のぬそのまうて
車より下りあきし

ゆきゆけ 細きこもりの
こもりあきし
ゆきゆけハ赤車のん
あきせけり物なれぬ衣
のぬれこもりあきし

こもりあきし
こもりあきし
こもりあきし
こもりあきし

細今ハ赤車
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ
ゆきゆけハ

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

くらしき
くらしき
くらしき
くらしき

びりりたるは 細粒
びりりたるは 細粒
— 細粒のつれづれ
のつれづれ 新右衛門
やうきつれづれ
幸命の心あり
りりりりり 細粒
浮舟のつれづれ
まぶさのつれづれ
おんまのつれづれ
あつたよりのつれづれ
らもつれづれ

あまもん 細粒
つれづれ 尾を
りりりりり
りりりりり
りりりりり
りりりりり
りりりりり
りりりりり
りりりりり
りりりりり

— 細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ

細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ
細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

細粒のつれづれ

なげきたしそむき
まりのえんを芳のふれ
本やいとと 盃のふれ
まの若ふとらひを
はのりものあり
ふとらひをよ
ふとらひをよ
ふとらひをよ
ふとらひをよ

里の名も 細字のり
若の人をわく
るり 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ

里の名も 細字のり
若の人をわく
るり 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ

里の名も 細字のり
若の人をわく
るり 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ

里の名も 細字のり
若の人をわく
るり 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ

里の名も 細字のり
若の人をわく
るり 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ

里の名も 細字のり
若の人をわく
るり 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ

里の名も 細字のり
若の人をわく
るり 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ
り 三は舟とら月をわ

